

みまもって！ ナベヅル・マナヅル

ナベヅル、マナヅルは冬になると日本に渡って来る渡り鳥です。かつては日本各地で越冬していましたが、乱獲や環境悪化により減少し、現在は鹿児島県出水市いずみの他、非常に限られた地域でしか越冬していません。熊本県ではこれらのツルが定期的に飛来するため、国や自治体、市民が協力して越冬地の復元・保全活動を進めています。



お願い 10月ー3月

300m以上離れる

飛来地での銃器の使用にご配慮ください

とても警戒心が強いので、銃声に驚いて越冬をやめてしまいます。



ツルを見かけたらむやみに近づかないでください

もしも近くでツルと出会ったら…

そのまま通りすぎてください。ツルを見ようとして車の速度を落とす、車外に出る、立ち止まるなどはしないでください。犬に対して非常に警戒するので、飼い犬を放さないようにしてください。



ねぐらにしている水辺に立入る際はご配慮ください(夜間)

日の入1時間前～日の出1時間後は、河川の中州や河口干潟、ため池等の浅瀬をねぐらとして利用しています。立入ったり車のヘッドライトを水辺へ向けたりしないようにご協力をお願いします。



その他

多くの人が集まるとツルに影響がでるので、ツルの詳細な生息場所の報道やインターネットへの掲載はご遠慮ください。



ナベヅル、マナヅルがよく見られる地域



※これらの地域以外にもツル類が飛来する場合があります。



	ナベヅル	マナヅル
レッドリスト	絶滅危惧Ⅱ類(環境省、IUCN)	
推定個体数	約 16,000 羽	約 6,000 羽
体長	約 100cm	約 127cm
分布	繁殖地：ロシア、中国、モンゴル 越冬地：日本、韓国、中国	
越冬地での生態	主に水田地帯に飛来し、落ち穂や昆虫、小型の水生物を食べる。	

鹿児島県出水地方での保護活動により個体数は増加していますが、世界のナベヅルの約9割、マナヅルの約5割が出水に集中しているため、重篤な感染症が発生した場合に、絶滅してしまうおそれがあります。